



トルコ南部・カフラマンマラシュ地震のデジタルアーカイブの支援・活用のための J-RAPID ワークショップ(2024/3/12-15)

テーマ：2023 年カフラマンマラシュ地震，災害デジタルアーカイブ

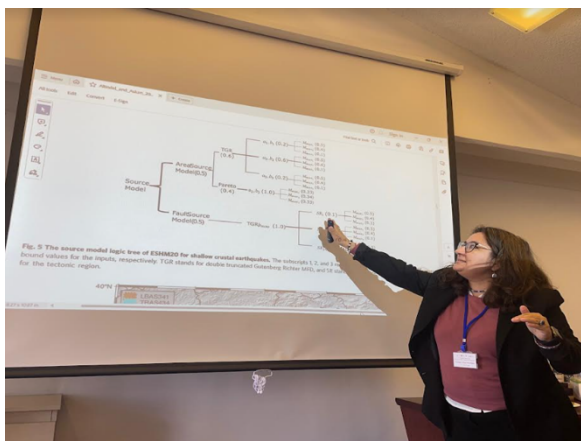
場所：中東工科大学(METU)，アンカラ，トルコ

参加者：今村文彦教授，サッパシー・アナワット准教授，渡邊勇 (D2)

2023 年 8 月 31 日より，2023 年カフラマンマラシュ地震関連デジタルアーカイブの作成支援・活用のプロジェクト(J-RAPID)が開始されました。2023 年 11 月 15 日には本プロジェクトの第 1 回ワークショップが 1923 年関東大震災特別プロジェクトとの共催で国立科学博物館において開催されました。ワークショップでは，アーカイブの役割や可能性，期待や今後の課題などについて議論しました。今回，2024 年 3 月 12 日から 15 日にかけてトルコ側のリーダーである中東工科大の Ahemt C. Yalciner 教授と第 2 回目のワークショップを開催しました。本ワークショップは，日本とトルコの両国の学生を交え，「災害デジタルアーカイブの明日」をテーマに開催されました。

ワークショップの初日(2024 年 3 月 12 日)は，当研究室のアナワット・サッパシー准教授の司会のもと，2023 年カフラマンマラシュ地震だけでなく，日本の東日本大震災や 2024 年能登半島地震や災害デジタルアーカイブに関連する一連の話題提供から始まりました。トルコ側は，METU の教員，学生，JICA トルコ事務所・日本大使館からの参加いただきました。最初の話題提供では，METU の Aysegul Askan 教授と Meltem Senol 准教授が 2023 年カフラマンマラシュ地震の前後の地震ハザード評価，被害と脆弱性について発表いただきました。次に，渡邊英徳教授(東京大学)により，災害デジタルアーカイブと最近の取り組みについて話題提供が行われ，参加者は 1945 年の広島への原爆投下，1923 年関東大震災，2011 年東日本大震災，2022 年のロシアによるウクライナ侵攻，2024 年能登半島地震など，歴史的な自然災害や戦災に対する数多くの適用事例を学びました。3 つ目の話題提供は 2011 年東日本大震災と 2024 年能登半島地震の教訓について，当研究室の今村文彦教授から話題提供が行われました。最後に，東京大学・渡邊英徳研究室の大学院生 6 名が前述の災害を研究対象として，VR やデジタル地図などを用いた最先端の研究について発表しました。

ワークショップ 2 日目(3 月 13 日)から最終日(3 月 15 日)までは，当研究室 D2 の渡邊勇と METU，東京大学の大学院生が参加し，「災害デジタルアーカイブの明日」をテーマに学生ワークショップが開催されました。両国の学生が 4 つのグループに分かれ，3D マップやその他の使えるツールを使って，災害デジタルアーカイブのプロトタイプを作成しました。例えば，1)ゲームを使って写真をアーカイブし，プレイヤーに避難経路を理解させるものや，2)プレイヤーに減災グッズを準備させるシリアスゲームや，3)プロジェクションマッピングや没入型ミュージアムのアイデアを使い，災害のプロセス(発災前，発災時，発災後)を理解させるもの，4)3D 写真技術やテキストマイニングを使い，災害の各段階における避難方法や文言の傾向を理解させるものなどのアイデアが挙げられました。本ワークショップは，両国の若い世代による，プロジェクト終了後も続く持続可能なコラボレーションの好事例となりました。



Aysegul Askan 教授による話題提供



Meltem Senol 准教授による話題提供



渡邊英徳教授による話題提供



今村文彦教授による話題提供



大学院生による研究発表



学生ワークショップ

文責： 今村文彦教授，サッパシー・アナワット准教授，渡邊勇（D2）